

平成30年2月26日（月） 第1回ロスマリン酸研究会

## ロスマリン酸研究会 代表世話人ご挨拶

### ロスマリン酸研究会発足の意義

阿部 康二 先生

岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科  
脳神経内科学 教授

私はこれまで認知症、脳卒中、パーキンソン病など様々な病気を扱ってまいりました。脳は酸化ストレスに弱い臓器で、酸化ストレスを抑えることは脳の病気を抑えることに繋がります。この度、大阪大学の森下竜一先生、神戸大学の古和久朋先生、鳥取大学の河田康志先生とともに、「ロスマリン酸研究会」を結成させていただきました。ロスマリン酸の良さを皆で勉強して、それが本当に脳に良いものであれば、多くの方に使っていただきたいと思い、この研究会を結成いたしました。



「ロスマリン酸」は、60年前にイタリア人の研究者によって、ハーブであるローズマリーから発見され、スペアミントやレモンバームなどのハーブの中にも多く含まれているポリフェノールです。

ロスマリン酸には、抗酸化作用や抗炎症作用があり、アレルギー反応を抑えるほか、近年では脳の健康にも働くことが研究で明らかになってきています。

我々医者の中では、ロスマリン酸の化学構造がそのような機能に直通しているであろうということで、構造活性相関が非常に大事と考えています。

## 第1回 ロスマリン酸研究会

ロスマリン酸は、1958年に2人のイタリア人研究者によってローズマリーから発見されたポリフェノールの一種であり、スペアミント、レモンバーム、シソ等のシソ科ハーブ類の植物に多く含まれます。

ロスマリン酸には抗酸化作用や抗炎症作用があり、アレルギー反応を抑えます。また近年では、脳の機能や健康を維持する働きがあることが研究で明らかになっており脳機能の分野についても研究が進んでいます。



スペアミント



レモンバーム



ローズマリー



シソ



タイム

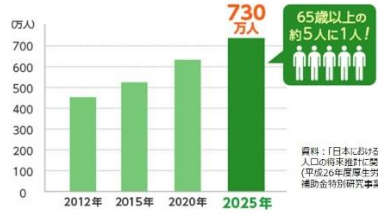


ロスマリン酸

本研究会の趣旨は、「ロスマリン酸」が脳に対する健康効果が高いことを確立するための研究情報をまとめ、正しい情報の発信拠点とすることです。今後も継続して「ロスマリン酸」と脳の健康に関する研究情報を発信し、議論を深める場にしてまいります。

## 認知症高齢者人口の将来推移

超高齢化社会が進む中、団塊世代のすべての人が75歳以上の後期高齢者に達する2025年を皮切りに、日本は「認知症社会」へと突入するといわれています。厚生労働省は、認知症の人が2025年に最大730万人にのぼると発表しています。



年	認知症人口 (万人)
2012年	約45
2015年	約50
2020年	約60
2025年	730

65歳以上の約5人に1人!

資料：「日本における認知症の罹患率人口の推移推計に関する研究」（平成26年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業）より

そこで、私たちは、より早い段階から脳の健康を維持し病気の予防が期待できる食品成分に可能性を見いだし、脳への働きが高いと研究でわかってきている「ロスマリン酸」に注目しました。

21年前に「ギリシャ神話の花とハーブたち」という本が出ました。

ちなみに、著者 日高けん は、私のペンネームです。その本の中に記述していますが、ミントはさわやかな清涼効果があり、花言葉は「もう一度愛して」です。今日のロスマリン酸研究会はメインテーマが認知症ですが、認知症を発症すると もの忘れや記憶がなくなります。「あの頃を思い出して、もう一度愛して」という花言葉に通じるかもしれません。

同じ本の中にラベンダーとローズマリーを載せていますが、ローズマリーは古代ラテン語のロスマリノスからローズマリーと名づけられました。花言葉は「思い出をいだいて」ですが、これも認知症に関係がありそうな花言葉です。このローズマリーから見出されたロスマリン酸は、スペアミントにも非常にたくさん含まれています。花言葉の意味からしても、古代から認知機能に関係があったのではないのでしょうか。それから 2000～3000 年たつてようやくこのようにロスマリン酸研究会が行われるようになりました。

クライスラーという有名なバイオリニストが作曲した「美しきロスマリン」という小曲があります。「愛と喜び」や「愛の形」というリサイタルでよく使う曲です。このような方面からもロスマリンという名前を憶えていただけたらと思います。

ポリフェノールは大きく 2つの種類があります。フラボン類とステルベン類です。

お茶で有名なカテキン、ブルーベリーのアントシアニン、大豆のイソフラボン、玉ねぎのクエルセチンはフラボン類に属します。一方、ブドウの果皮に含まれるレスベラトロールはステルベン類です。ロスマリン酸は、この 2つの分類のステルベン類に似た構造をしています。

認知症患者が国内外で増えてきていますが、もしロスマリン酸が認知症に対して効くのであれば、薬を飲み始めるより前から摂ることで、認知症の予防に繋がり、社会的にも非常に意味のある重要なこととなります。

医薬品と食品の分類では、「医薬品」「医薬部外品」「保健機能食品」「一般食品」があります。このうち「保健機能食品」はさらに「特定保健用食品」いわゆる特保、「機能性表示食品」、「栄養機能食品」に分けられます。ロスマリン酸はサプリメントとして効果があるので

あれば、機能性表示食品に分類されると思います。

私は、日本認知症予防学会にも所属しており、その学会が昨年岡山で開催されました。その中で、エビデンス創出委員会というものがあり、私はその委員長をしています。

第一の認定が出たのが「フェルガード」というサプリメントです。中身の主成分は「フェルラ酸」で、これは昔の玄米の胚芽に多く含まれる成分です。「フェルガード」は、フェルラ酸とガーデンアンゼリカという菊を混ぜたサプリメントです。フェルラ酸の構造は、ロスマリン酸の構造の半分と似ています。ロスマリン酸はフェルラ酸の構造を2つ持っていると考え、フェルラ酸より効くかもしれないという期待が持てます。

### 医薬品と食品の分類

### 日本認知症予防学会エビデンス認定 第1号 フェルガード(グロービア社)の概要

		フェルラ酸 (玄米polyphenol)	ガーデン アンゼリカ (西洋当帰)
主な 製品名 と配合	フェルガード100M	100mg	20mg
	NewフェルガードLA	100mg	100mg
期待される 効果		抗酸化ストレス効果 抗炎症効果 Aβ減少効果	AChE抑制効果 (脳内ACh増進効果)

(グレードC認定 = ★)  
1日3g服用 →

(1) 平均年齢81.6歳のFTD10名とDLB10名にフェルガード1日3g/日服用させ、4週後にBPSD/NPIで評価。主に認知・妄想などの精神BPSD症状を有意に改善し、アβも有意に改善した。  
(Okuma T et al. GGI 2011; 11: 309-314)

(2) 平均年齢79.2歳のMCI症28名(平均ADAS-Jogc9.9)にフェルガード1日3g/日服用させ、4週間でADAS-Jogc改善傾向はあったが、有意差までは行かなかった。66週目でも改善傾向は持続していた(6.7点)。MCIの認知症へのconversion率が8.4%年と通常より低し、(Okamura T 新薬と臨床 2014; 93: 1646-1654)

ロスマリン酸研究会を通じて、そのように脳の健康や認知症に対して可能性を秘めたロスマリン酸の基礎研究データを勉強し、そして臨床的な立場で本当に効くのかということを確認していきたいと思っています。